地球とともに生きる！
～持続可能な未来社会への展望～

誕生当時は酸素もなく生物も存在しなかった地球が、46億年という想像もつかない長い時間をかけ、数え切れないほどの変化をくり返し、その過程で生まれた生命とともに進化し続け、今の地球になりました。人間の命の長さでは到底感じることができない大きな変化を、地球は自力で繰り返してきたのです。

地球の長い歴史からは、ほんのつい先ほど現れたばかりの人間による、産業革命以降の旺盛な開発欲と経済活動が地球を窮地に追い込んでいます。

この限界を迎えつつある地球を回復させ、どう持続的に発展させていけばよいのか。今回は、三重大学大学院の坂本教授にお話を伺いました。

持続可能な社会づくりのために

私たちの住む三重県では、都市部を除く多くの市町で、若者が外に出てしまい、人口が減少するとともに高齢化がたいへんな勢いで進行しています。三重県南部では国土交通省が想定する2050年の高齢化率40％をすでに上回っている自治体も生まれています。人口が1000人を切ると、基本的な医療、教育、流通系のサービスなど、基本的な社会のしくみが成立しなくなる可能性があります。このような状況を鑑みたとき、今後も持続的に発展していけるようにするには、どうすればよいのでしょうか。

「持続的な社会のしくみ」についてはさまざまなことが言われていますが、人類が生きていくためには、必要な水と食料とエネルギー、そして具体的なライフラインをどう維持していくのかが最も考えなければならない問題であると坂本教授は言います。

エネルギーの問題を考えると、日本は、エネルギー資源、特に発電燃料の9割以上を海外に頼る、完全なエネルギー国外依存国です。この現状を何とかしなければなりません。

そのほとんどを占める、石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料はいずれ枯渇すると昔から言われていますが、世界中の石油は、すでに2005年頃から生産量が頭打ちとなるピークオイルを迎え、現在はストックを使うモードに入っています。数億から数千万年前に生きていた生物や植物の化石である化石燃料を、人類はわずか200年ほどで使い切ろうとしています。無くなることを考えずに使い続けてきた人間は、ここに来て大きな岐路に立たされています。このような世界情勢の中で、超エネルギー依存国である日本は、この課題をどう解決しなければならないのかというとても大きな問題を抱えています。

【お話を伺った人】

国立大学法人 三重大学大学院
生物資源学研究科・教授
坂本（さかもと） 竜彦（たつひこ）さん

過去の地球を研究することにより、地球の成り立ちを理解するとともに、持続可能な未来の地球を展望して、自然と調和した社会作りについて、研究・実践・提言等をしている。

※『三重大X』から引用